

おおさか AALA

非核・非同盟・平和・友好・連帯

今月の読み物

p 2 清末さんのスピーチ (要旨)
 p 3 イスラエル抗議文 p 4～5 ニジェールその2
 P 6 鈴木宜裕さんの講演 2
 p 7 田中修治さん追悼文
 p 8 AALAカフェ・英語を読む会・川柳

〒540-0004大阪府中央区玉造1-6-11黒石ビル3F



11・3扇町公園 5000人が声を上げる

日本国憲法公布77年目の3日、「輝け憲法！平和といのちと人権を！おおさか総がかり憲法集会」が扇町公園で開かれ5千人が参加。

「憲法守れ」「大軍拡やめろ」とコールし、集会后2コースでパレードを行いました。

開会挨拶で「戦争をさせない1000人委員会・大阪」の米田彰夫共同代表は「ガザで起きている虐殺をみんなの声で止めよう。平和的生存権を明記した日本国憲法を守り、世界の人々と連帯して反戦平和を実現しよう」と呼びかけました。

清末愛砂・室蘭工業大学大学院教授が、「人権に基づく平和な社会を」と題してスピーチしました。(別項p2に)。

沖縄県の「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会」の清水早子さんは、九州から南西諸島にかけて大軍拡・戦争準備が急ピッチで進められている生々しい現状を訴えました。

そして、「沖縄は戦後ずっと憲法の平和的生存権が脅かされてきた」と強調し、「戦争推進の政権を变えるたまたかにたちがあがつて下さい」と訴えました。

続いて立憲野党の各代表が登壇しスピーチを行いました。

人権に基づく平和な社会を

清末愛砂さんのスピーチ（要旨）

違法なガザ封鎖を許さない

日本国憲法には格調高い前文が置かれ、平和的生存権が明記されています。前文の主語は私たち国民であり、日本国は全世界の人々に対し平和的生存権があるとうたっているのです。

私は平和的生存権の実現を目指し、23年間パレスチナ連帯活動を続け、ガザという閉鎖された空間に入ろうとしてきました。憲法研究者としての矜持でもあり、違法なガザ封鎖を絶対に許さないという抵抗でもあります。

イスラエル軍は11月2日もその前の1日も、ミサイル攻撃を続けました。空爆によって私が知り合った

子どもが、今も瓦礫の下に埋もれているかもしれない。死んだ子もいるかも知れません。

「野外監獄」と批判されるような非人間的な扱いは国際法上絶対に許されてはなりません。

ガザの人たちは東西5、8キロ南北50キロという365平方キロメートルの空間に押し込められ、220万人もの人々がフェンスと壁に囲まれて生きることを強いられて来しました。

イスラエルはガザの人々に「南部へ避難しろ。北部に残る人はハマスとみなす」と言いますが、南部も空爆を受けておりガザに安全なところなどはありません。

ガザの人々であろうとも、アフガニスタンの人々であろうとも、「等しく恐怖と欠乏から免れる」権利があるのです。

ガザの人々であろうとも、ミャンマーの人々であろうとも、アフガニスタンの人々であろうとも、「等しく恐怖と欠乏から免れる」権利があるのです。

私は平和的生存権という考え方を重視しています。「等しく恐怖と欠乏から免れる」ことが全世界の国民の権利だとうたっていることに大きな意義があると思います。

ガザで起きている出来事に対し、停戦を求めるのは当たり前のことです。忘れないでほしいは、仮に停戦になっても封鎖が続けば全く意味がないのです。

行き着く先はジエノサイド

私を否定して自衛の名の下で軍拡を進め、命を奪うやり方はイスラエルだけでなく、日本もやってはなりません。

それを否定して自衛の名の下で軍拡を進め、命を奪うやり方はイスラエルだけでなく、日本もやってはなりません。

でも泣きたいのは私じゃない。見捨てられてきたガザの人々です。

恐怖と欠乏から免れる権利

それを否定して自衛の名の下で軍拡を進め、命を奪うやり方はイスラエルだけでなく、日本もやってはなりません。



『自衛のため』という理由で

この23年間、私が聞き飽きている言葉は「自衛」です。

『自衛のため』という理由でたくさんさんのパレスチナ人が殺され負傷するのを見てきました。

日本国憲法の98条2項は日本が国際法を遵守することをうたっており、平和的生存権を銘記した憲法前文の解釈は、あるていど国際法に基づいたものでなければなりません。

それを否定して自衛の名の下で軍拡を進め、命を奪うやり方はイスラエルだけでなく、日本もやってはなりません。

ガザで起きている出来事に対し、停戦を求めるのは当たり前のことです。

忘れないでほしいは、仮に停戦になっても封鎖が続けば全く意味がないのです。

停戦になってもパレスチナの人々と共にいるという気持ちをおぼすれないことが重要です。

11月4日の大阪母親大会アフター企画はなかなか素晴らしいものでした。

森住先生、素晴らしい写真と、そして訴訟に立ち上がった少女の生の声・貴重なお話しありがとうございました。

号を改めて紹介させていただきます。



森住卓さん



イスラエル、アメリカ、日本政府に抗議文を！ 集中しよう！

パレスチナ・ガザでのイスラエルによる無差別殺戮を止めさせるために日本AALAは、イスラエル、アメリカ、日本政府に抗議文を送付することを呼びかけます。

各都道府県AALAまたは個人として抗議文を作成し、送付してください。その際大使の氏名を必ず書いてください。ファックス番号等は各抗議文の末尾に書きました。(ファックス送付する際にはその部分を消してください)

駐日イスラエル大使館あての抗議文

イスラエルはガザでの無差別殺戮をやめよ

2023年11月13日
日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会(日本AALA)

イスラエル軍によるガザ攻撃は一か月を過ぎ、侵攻した地上部隊による攻撃と相まって、ますます苛烈となつている。すでにパレスチナ人の死者は一万一千人を超え、子供の死者も四千人を超えた。

攻撃は、住民が避難している学校や病院、国連施設にも容赦なく行われ、南部への強制避難させられている住民にも加えられるなど無差別となつている。西岸でのパレスチナ住民への攻撃による死者も数百人にのぼっている。国連や人権団体、法学者らがこぞつて大量虐殺の戦争犯罪、ジェノサイドがおこなわれていることを一様に指摘し、世界では欧米政府を除く圧倒的多数の国と人びとが攻撃の停止を求めている。

違法なガザ封鎖や西岸の軍事占領に加え、今回の攻撃にあたってイスラエルは、封鎖しているガザ地区への水、食料、燃料、電気の供給を遮断し、当局や指導者が「ガザに民間人はいない」として住民全体を攻撃の対象にすることを公言していた。

閣僚たちも、パレスチナ人を「動物」扱いし、「第二のナクバ」や「完全追放」を主張するなど「民族浄化」を公然と煽っている。政府がガザ住民を「シナイ半島に放逐する」政策文書を作っていたことが明らかになっている。

もはや「自衛権の行使」とか「ハマスの攻撃にたいする

報復」「捕虜奪還のため」といった主張はなりたたない。長期にわたってねらわれてきたパレスチナ人の「一掃」をねらった「民族浄化」「ジェノサイド」が進行中と断ぜざるをえない。

イスラエル政府は、内外からの批判にすべて「反ユダヤ主義」のレッテルを張って自己正当化しているが、残酷な民族浄化を世界の人びとは決して容認しないことをよくよく知るべきだ。

アメリカや西側諸国の政府からの支持をえても、国民の間には反発が拡がり、いまや世界は「パレスチナを救え」「イスラエルの戦争犯罪を許すな」の声が圧倒的になつている。イスラエルと後ろ盾のアメリカは孤立を深めている。私たち日本AALAも、いっそう声をあげ、イスラエルの戦争犯罪を糾弾、パレスチナ人民の人権と民族自決権の完全回復をもとめて活動していく決意を表明する。

駐日イスラエル大使館
特命全権大使 ギラッド・コー
ヘン様

〒102 0084 東京
都千代田区二番町3番地

日本AALAの呼びかけに応え、大阪AALAも14日の常任理事会で、イスラエル大使館、アメリカ大使館、日本政府への抗議文を送る運動に取り組む事を決めました。ここでは、イスラエル大使館への抗議文を掲載しました。

アメリカ大使館への抗議文、日本政府への抗議文は別紙にて同封しています。一つでも多くの抗議文を送りましょう。

12日、パレスチナ自治区ガザル北部のガザ市にあるシファ病院で停電後保育器から出された新生児。

(ライター時事)

11月14日付け赤旗から



元JICAニジェール支所長
山形 茂生さん

ニジェールの地理・政治経済と

谷垣夫妻のお話 その2

治安

西アフリカ地域の2019-2020年でのテロ事件分布図を見てみよう。オレンジ色がIS(イスラム国)系、紫色がアル・カイダ系

だそうで、その違いはよく分からないが、要は背景となる人脈だろう。ニジェールでは、マリ国境、ブルキナファソ国境、そして南東端のナイジェリア国境周辺にテロ事件発生が見られるが、それ以外にはほとんどない。ニジェール国内のこれらテロ事件も、隣国から国境を越えてやってきたもので、ニジェール国内では活動しているテロ組織というものは聞いたことがない。

青年海外協力隊員は、2011年1月まで派遣されていた。それが突如全員引き上げ、派遣中止になった

のは、ニアメのレストランでフランス人青年2名がテロリストに誘拐され、ニジェールとフランスの警察・軍による共同救出作戦が失敗して殺害されたからである。

アメリカン・ピースコー

はすぐに引き上げ、協力隊員も全員国外退避して、それ以来派遣は中断されたままである。その時のテロリストも、マリから国境を越えて侵入したグループだった。

2019年1月当時の外務省海外安全ホームページによるニジェールの危険情報地図では、ほとんどが真っ赤のレベル4退避勧告、南部に僅かにオレンジ色のレベル3渡航中止勧告であるが、実際にはそこまで危険ではなく、ニジェール人のほとんどは外国人に親切な争いを好まない人たちだ。隣国のテロリストが入り

込んで起こすテロ事件のせいで、ニジェールが危険と見なされているのは気の毒だ。

今回さらにクーデターと、反フランス運動で、外務省危険情報地図は全国が真っ赤になり、ますます先が見えない状況になってしまった。JICAも日本人関係者を引き上げさせ、今は1(2名のNGO関係者が残っている)と聞く。早く落ち着いて、安心して訪問し、国内のどこにでも行ける日が

来てほしい。
経済・開発指標

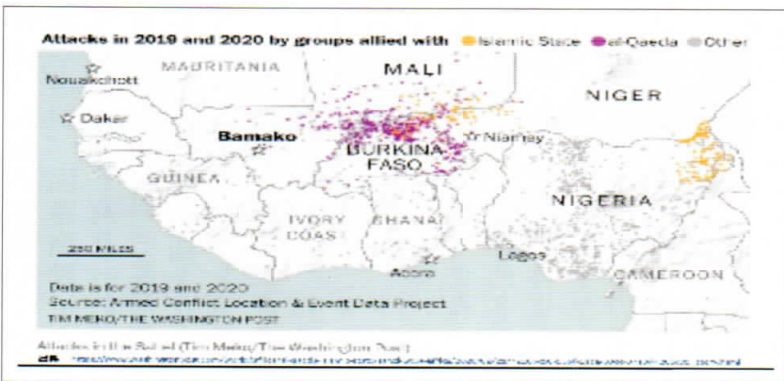
経済指標は、世銀2021年の1人当たりGNI(国民総所得)統計で見れば、データの無い国々(キューバ、エリトリア、北朝鮮、その他)を除いた183ヶ國中175位で、かつて最下位辺りに低迷していた時代に比べると、やや浮上している。別の面から見れば、ニジェールよりも経済的困難に陥っている国々(コンゴ民、モザンビーク、アフガニスタン等)が増えているともいえるのだが、ニジェールは、ここ数年不安定な近隣のサヘル諸国の中で、つい最近まで安定して、サヘル地域の新たな中心地という地位を享受していたからではないだろうか。

経済的側面だけでなく、保健的側面(出生時平均余命)や教育的側面(就学年数)も勘案したUNDP発表の2021年の人間開発指数(HDI)は0.400、1911ヶ國中189位で、2012年の0.354(189ヶ國中189位)から比べると前進している。とは言っても世界の中では

相変わらず低い方なのだが、世界全体が数字の上では少しずつ改善している中で、ニジェールも同様の足並みをたどっていると見えるのだろう。

ニジェール料理
クスクス

小麦粉、ソルガム「ミレット」等をパスタにしてシチューなどをかけて食べる。
「世界で最も小さなパスタ」と呼ばれ、最近日本の多国籍レストランでもたまに見かける。



ソルガム (モロコシ)



ミレット (シコクビエ)

ニジェール人の生活

ニジェール人の90%以上はイスラム教徒である。ニジェール国内各地に大小さまざまなモスクがあり、朝は夜明け前から、夜は7〜8時頃まで定期的に祈りへの呼びかけ（アザーン）がスピーカーから流れる。JICA支所でも現地職員たちは、昼間の祈りの時間には一斉に仕事を中断し、皆揃って祈りの場に向かった。イスラム教の暦は太暦で、新月からイス12ヶ月（354日前後）で年が変わる。公的にはグレゴリオ暦を採用し、土日が公的機関を含む社会の休日である。

イスラムの祭はイスラム暦に従って催され、大きな祭は年に2回、断食月（ラマダン）明けと、巡礼月（ハッジ）後の犠牲祭が盛大に祝われる。公的な暦とイスラム暦との間に11日ほど差があるため、これら祭りも毎年11日ほどずつズレていく。

原理主義的なグループや、過激派集団はない。皆平和的に暮らし、クリスマスも欧米ほどではないにしても多くの人が楽しんでいる。

私の周りのニジェール人は、皆まじめなイスラム教徒で、祈りは毎回欠かさず、アルコールは飲まず、断食月は日中水さえ飲まずに過ごしていた。

しかしビールは普通に売っていて、昼間から飲む人もおり、かと言って周りの人々はしよがないなど苦笑いするくらいで、宗教と生活習慣に寛容な社会だ。



ニジェールと日本との関係

ニジェールと日本との関係について触れよう。

日本大使館は実館を置かず、在コートジボアール大使館が兼轄している。常駐している日本企業はない。

JICAは支所を置き、今回のクーデターまで日本人3人が勤務するのみだった。あと、NGOが1人か2人いる程度で、日本人社会は非常に小さい。かつては協力隊員が数十名いて、地方都市にまで活動の場を広げ、現地人社会での生活活動、付き合いを謳歌していた。

また、ウラン鉱をニジェールから輸入しており、そのため日本企業が出資するウラン開発企業の年一回の総会に日本人役員が訪れていた。

残念ながら2011年のフランス人青年誘拐殺害事件で協力隊員は引き上げ、日本人の立ち寄り先は極めて制限され、ウランは輸入を止め、日本人の来訪は非常に少なくなった。

それでも、JICAを含むODA事業は予算が限られている中で、3つの分野に絞り込んで、継続している。

ひとつ目は、ニジェールを含むサヘル一帯の平和と安定を目指す協力で、国際機関と連携しながらパトロール車両や無線機を供与して

いる。

2つ目は農業で、農民自らが市場の動向を調査し把握しながら、より多くの現金収入を得る市場志向型農業を指導している。

3つ目は教育、「みんなの学校」と称される、村人たちが自ら学校運営や教育に参加して、子どもたちの能力向上を目指す支援である。

それ以外にも、周辺諸国を含めた西アフリカ地域に対する保健、インフラ・産業振興、自然環境保護といった分野にも小規模だが協力を続けている。JICAニジェール支所独自の発案で、学校を舞台に「きれいな街」キャンペーンを毎年実施していた。

なお、ニジェールも日本に大使館実館を置かず、在中国大使館が兼轄している。在日ニジェール人は10人程度しかおらず、ほとんどが日本人女性と結婚したニジェール人男性で、あとは留学生数名だそう。

最後に、ニジェールを語るうえで忘れてはならないお二人、ニジェールで暮らして亡くなられた谷垣夫妻についてお伝えしたい。

(p7につづく)



「世界で最初に飢えるのは日本」
鈴木宜弘さんの講演
報告その2
小松 靖昌

958年に一部地域で国産牛乳に替わり、1964年にはすべてが国産牛乳に)

日本は米国の余剰農産物の最終処分場

私を含む「後期高齢者」世代にとって、小学生の頃の学校給食の記憶は飽食の今こそ忘れたいものです。「脱脂粉乳」のミルクとコッペパン、そしておかずのシチュー。特に「脱脂粉乳」のミルクの不味さは共通の記憶ではないでしょうか。しかし当時の痩せ細った小さな黒いゴボウのようだった小学生の私にとっては、骨と筋肉の維持と成長に貴重な栄養源の一つでもあったようです。ただ鈴木宜弘さんの「世界で最初に飢えるのは日本」の講演を聞き終った後、今日の「米国の余剰農産物の最終処分場」は、あの「脱脂粉乳のミルク」と米飯に替わる「コッペパン」から始まったのかと当時の小学校給食も、ことさら苦々しい記憶に替わりま

戦後しばらく続いた日本の食糧難と米国の余剰穀物処理への対処として、早い段階で実質的に関税撤廃された大豆、飼料用のトウモロコシの輸入数量割当制は形式的に残しつつも、大量の輸入を受け入れた小麦などの品目は、輸入急増と国内生産の減少を加速させ、自給率の低下を進めたのです。そうしてこれを「やむなし」とする誤った世論の典型は「日本の農地と農業生産力は限られているのに、食生活の変化に伴う食糧需要が増大したため対応しきれなくなった」として、原因は「食生活の変化だから仕方がない」と国民の多くは納得させられ、またその「食生活の変化」も仕組まれていたのです。いつの世にもいる「回し者」

戦後の食料事情が好転し始めた1958年(昭和33年)に、その後の農業に大きなダメージを与えた一冊の本が出版され、発売後3年目にして50版を重ねるほどベストセラーとなりました。それは慶応大学医学部教授・林 謙(はやしたかし)氏の著書『頭脳』。この記述は今でもこまごまたく科学的根拠のない噴飯物の暴論でしたが、当時は正しい学説?として広く国民に受け入れられてしまいました。著書『頭脳』には「コメ食低能論」がまことしやかに述べられていて、林氏は、日本人が欧米人に劣るのは主食のコメが原因であると述べて「: : :これはせめて子供の主食だけはパンにした方がよいということ: : :大人はもう、そういうことで育てられてしまったのであるから、あきらめよう。: : :しかし、せめて子供たちの将来だけは、私どもと違って頭脳がよく働く、アメリカ人やソ連人と対等に話のできる子供に育ててやるの

がほんとうである」と述べているのです。新聞の「天声人語」もコメ食否定論を展開し、慶応大医学部教授の肩書きやマスコミパワーに国民はすっかり洗脳されたのです。

欧米型食生活崇拜運動と和食排斥運動

当時は、米国の小麦生産過剰による日本への売り込み戦略の下、「洋食推進運動」が各地で展開され、日本人の食生活近代化をめざす「栄養改善普及運動」や「粉食奨励運動」が進められ、これはまさに欧米型食生活崇拜運動と同時に和食排斥運動でもありました。調理台付キッチンカーが20数台で分担し、都市部のみならず農村部まで全国津々浦々を巡回してパン食に加え、肉食も勧めるフライパン料理などの試食会や講演を繰り返して、この強烈キャンペーンに農家の人達までが洗脳されて欧米型食生活崇拜に陥ってしまいました。伝統的な食文化を、短期

間に変化させてしまった民族は世界史上ほとんど例がないようですが、この頃からわが国のコメ消費量の減少が始まり、コメの生産過剰から水田の生産調整へと繋がりが、またわが国の農業、農政の凋落と食料自給率の低落も始まるのです。

日本の「パン食」だけでなく「肉食」化への仕掛けも露骨です。その仕掛け人・米国飼料穀物協会のクライスパームビーが「日本資料協会」を発足させ、テレビ広告や東京「肉まつり」などで宣伝しながら、目的の余剰の米国産飼料用トウモロコシの処分のための「日本の畜産を推進」し、これが今日にも繋がっているのです。

「報告その2」のつづきは、機会を得て「報告その3」にて報告する予定です。ご了承ください。(小松)



田中修次さん
追悼文

米澤清恵

英語で世界を読む会で田中修次さんの訃報（2023年9月24日逝去）を聞きました。

若い頃結核を患った人は再発すると大変、と言われていきます。しかし、彼は数年前再発した時もしつかりと闘病し、生還。細い体で長い間、様々な活動をこなしてきた精神力が彼を支えた喜び合いました。

最近、英語を読む会には体調が悪いと欠席が続いて心配していました。

田中さんは、中学の英語科教員で、大阪AALAの英語を読む会に来ておられた平塚先生や大谷さんや私も共に新英語教育研究会（新英研）の大阪支部、大英研で永らく研究・実践活動してきた仲間です。

外国語教育は平和教育と位置付けて若い大英研のメンバーは教室ではわかる楽しい授業を、頑張っていました。

田中さんは四条畷市教職

員組合の委員長を長年務める傍ら、地域では（当時の共働きの家庭はみんな）保育所運動にも関わっていました。大英研のことばかり書いて恐縮ですが、被爆二世の生徒を平塚先生が担任された経過もあり、大阪原爆被害者の会とのつながりで、新英研大阪大会ではし原爆法廷の英語劇をやり、田中さんは裁判官を演じられたのを思い出します。



「英語で世界を読む会」は1970年代から鴨脚

（いちろう）先生が始められていたと思いますが、2001年〜3年の2年間は田中さんが中心になってくださいました。資料の英文を丁寧日本語訳して持つてこられ、情勢に影響のあ

る重要な新聞記事のスクラップを資料提供したり、コツコツと真面目な学習の仕方にはいつも学ばされました。物静かな方なので目立たないのですが、コツコツと言えば、16歳の時12歳歳のドイツの少女と文通を始め、ドイツも訪ね、彼女の夫君の来日・交流もあり、退職後までずっと続いた記録『花も実もあるドイツ人カップル、文通半世紀とヨーロッパの未来像』という本も出版されています。

その粘り強さ、誠実さ、奢らない性格は彼の人生を貫く姿勢だったと思います。退職してからも、大阪年金者組合の大東市支部の執行委員長を11年間もこなし、地域の図書館や福祉施設のボランティア活動などもされていたと聞きます。

いかにも田中さんらしい生き方です。英語を読む会にきてから、AALAに加入を躊躇されていた時期があつたのも、彼の地元での忙しさがそうさせていたのだと思います。

自分らしく生き抜かれた田中さん、お疲れ様でした。合掌

P5からつづく

京都府京丹后市出身の谷垣雄三さんは、外科医で、ニジエールにJICA専門家として1982年赴任し、10年間ニアメの国立病院勤務、その後ニアメから東へ770kmにあるテッサワという地方の町に外科診療所を建て、外科診療を行う。地方の一般住民も外科診療を容易に受けられる制度を作るため調査を続けた。信州大学医学部在学中に知り合った長野県松本市出身の奥様、静子さんは絵描きで、ご主人の全国調査に同行して砂漠旅行を繰り返して国内を見て回り、スケッチをして、200点近い作品を遺された。

奥様が先にテッサワのご自宅で亡くなられた（1999年1）、雄三医師は中庭に埋葬した奥様に毎朝語りかけながら活動を続け、地方外科を進める為の方法や留意事項をまとめられた。6年前に自宅で、診療所の日常業務の責任者で、教え子である看護師が看護する中、発作で息を引き取られた。その時筆者はJICA支

所長としてニアメで勤務。ニジエールを兼轄する在コトジボアル日本大使がたまたま出張中で、随行の大使館書記官を含め日本人3人でテッサワまで出かけ、大統領名代の州知事とともに、地元の人々がイスラム式で執り行う埋葬式に参列した。

元自宅は、その後ニジエール政府の意向で産院付き保健所に改築。

二人はその中庭で毎日赤ん坊の産声を聞きながら永眠されている。お二人の生き様を、学生時代の山仲間で、谷垣雄三・静子夫妻記念事業実行委員会会長の川本さんが「ニジエールのドクター・タニ 谷垣雄三物語」として書かれたので、興味ある方は是非お読みください。

(J)



文芸欄 川柳

ガザ破壊ガレキの上で泣く子ども

生きているうちに何度見れるか
アレのアレ

代執行民意無視した「法治国」

大阪市旭区 近藤 正

イスラエルハマースも先ずは銃を
置け

ガザ事態互いに口で泡飛ばせ

岸田首相九条持つてガザへ行け

四條畷市 西川ひろし

訂正とお詫び

第35回AALAカフェ
講師 岸野令子さんが岸野玲
子さんになっていました。
謹んでお詫び申し上げます。

AALAカフェのお知らせ

ミャンマーのたたかい
私達はどう支援を続けるか
軍事クーデターから2年、今も国民への弾圧はやまず、難民は増え続けています。

12月10日(日) 13時30分～

場所 大阪AALA事務所
講師 原田 正美さん
奈良AALA会員
大阪大学外国語学部ビルマ語講師

英語で世界を読む会 12月例会

11月には、「Fukushima Up Close, 13 Years Later」という記事を読みました。Counter Punchというオンライン上のマガジンからの記事です。アメリカをベースにしています。福島第一原発からの「処理水(核汚染水)」を太平洋に放出したことに対して、厳しく批判している記事でした。

12月は19日(火) 2:00に、AALA事務所で行います。

テキストは未定ですが、イスラエル・パレスティナ問題についての記事を選ぶ予定です。連絡下されば、テキストを送ります。

奮ってご参加ください。

安井 (pichan5@hotmail.com
または0797-85-9151)

< 大阪AALAニュース原稿募集 >

- ツアー報告 ○ 政治や社会世界の動き、等
文字数2000字程度、写真6～7枚程度添付でお願いします
- 文芸欄 紙面の都合上「俳句」「川柳」「短歌」で1人3句

◎ 編集の都合上
締め切りはその月の10日着でお願いします

大阪AALA へのお誘い
会費 月 800円(年 9,600円) (25才以下は年3,000円) *入会金 500円
*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円づつご入金をお願いします
*会費の中に機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送します



発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)
Osaka Asia Afrika Latin America Solidarity Committee
〒540-0004 大阪府大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F
TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361
E-mail osakaaala@nifty.com HP:http://osakaaala.la.coocan.jp

